

北見工業大学学報

第 256 号 (2013 年 3 月号)

目 次

学位記授与式	平成 24 年度学位記授与式を挙行……………	3
告 辞	平成 24 年度学位記授与式告辞……………	4
入 試	大学院工学研究科(第 2 回)入学試験を実施……………	7
	工学部一般入試を実施……………	8
研 究 助 成	平成 24 年度共同研究の受入状況……………	9
	平成 24 年度奨学寄附金受入状況……………	9
人 事	人事異動……………	10
国 際 交 流	2013 年留学生交流の夕べを開催……………	19
諸 報	学生による地域貢献活動(市町村の冬祭りへの参加)……………	20
	安全衛生講習会を開催……………	21
	平成 24 年度新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン事業終了……………	22
	第 6 回オホーツク医学大会・北見医工連賞贈呈式……………	23
	オホーツク・テロワール ワークショップへ参加……………	24
	FD 講演会を開催……………	25
	第 8 回コラボ産学官研究成果発表会へ参加……………	26
	日本食品科学工学会北海道支部大会パネル展へ参加……………	27
	文部科学省 東日本大震災復興支援イベントへ参加……………	28
	北海道地域 4 大学 1 高専新技術説明会へ参加……………	29
	個人情報保護研修を開催……………	30
	北見工業大学生生活協同組合防火訓練を実施……………	31

	オホーツク地域活力支援包括連携協力に関する協定を締結……………	32
	太陽光発電事業推進に関する協定を締結……………	33
	平成 24 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式(退職時)を挙行…	34
目 誌	2 月・3 月……………	35

= 学位記授与式 =

平成 24 年度学位記授与式を挙行

(総務課)

3月18日(月)、平成24年度学位記授与式が午前10時から北見市民会館で行われました。

学部367人の卒業生、大学院博士前期課程123人及び大学院博士後期課程7人の修了生に対し、鮎田耕一学長から学位記が授与されました。

引き続き、学長告辞、櫻田真人北見市長、永田正記後援会会長、小田桐久信同窓会会長及び近藤和雄学生後援会会長からの祝辞の後、マテリアル工学科・岡田真育さんが、「現在の日本は世界的不況のさなかにあるとともに、アジア諸国の猛進により、非常に厳しい経済状況にあり、私たちが歩いていく道は、今まで以上にとっても厳しく険しいものだと思う。しかし、これまでに本学

で学んだ事を生かし自分自身の可能性を信じて、自己研鑽への努力を惜しまずに社会へ広く貢献していくことで、日本の、ひいては世界の明るい未来を切り拓いていきたい。」と答辞を読み上げ、式は無事終了しました。



卒業生、修了生の人数は下表のとおりです。

学部

学 科 名	卒業者数(人)
機械工学科・機械システム工学科	76
社会環境工学科・土木開発工学科	58
電気電子工学科	62
情報システム工学科	65
バイオ環境化学科	58
マテリアル工学科・機能材料工学科	48
合 計	367

大学院博士前期課程

専 攻 名	修了者数(人)
機械システム工学専攻	32
電気電子工学専攻	19
情報システム工学専攻	10
化学システム工学専攻	31
機能材料工学専攻	22
土木開発工学専攻	9
合 計	123

大学院博士後期課程

専 攻 名	修了者数(人)
生産基盤工学専攻	1
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3
医療工学専攻	1
システム工学専攻	1
物質工学専攻	1
合 計	7

= 告辞 =

平成 24 年度学位記授与式告辞

学部卒業、大学院修了の皆さん、学位取得おめでとうございます。

学部卒業の皆さんは4年間、大学院博士前期課程修了の皆さんは6年間、大学院博士後期課程修了の皆さんはさらに長く大学で学び研究し、その努力が実り、めでたく学位記を授与されたことに敬意を表し、北見工業大学の教職員を代表してお祝いを申しあげます。

本日はご多用にもかかわらず、北見市長の櫻田様、大学後援会会長の永田様、同窓会会長の小田桐様、学生後援会会長の近藤様にご臨席を賜り、本学の理事・副学長・事務局長が列席するなか、学位記授与式を挙行できますことに感謝申しあげます。



本年度は、学士 367 人、修士 123 人、博士 7 人に学位記を授与致しました。

この中には、中国、韓国、マレーシア、バングラデシュ、ベトナム、インドネシアからの 24 人の留学生がおります。

本日は、多くのご家族・保護者の方々にご出席いただいております。

卒業、修了は学位を授与された皆さんの努力のたまものでありますが、同時に皆さんを温かく見守り続けてこられたご家族や

周りの方々の経済的、精神的な支援のおかげでもあります。このような方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

特に、ご家族は今日この日を晴れやかな、そして少しほっとした気持ちで迎えられていることと思います。

ご家族の皆様にご心からお慶び申しあげますとともに、これまでのご苦勞と本学へのご協力にこの場をお借りして感謝申しあげます。

さて、学部生の皆さんは大学入学時、高等学校とは異なる雰囲気の中で少なからず不安な気持ちを抱きながらも、これからの大学生生活に期待を膨らませていたと思います。

4 年前の入学式で、私はこの壇上から皆さんに学ぶという意欲を持って努力してもらいたいと述べました。

4 年間で大学生として北見工業大学で過ごした皆さん、結果はいかがでしたか。

私には今日の学位記授与式での皆さんは、4 年前と異なり、はつらつとしているように見えます。

これは、大学生としての勉強に加えて、社会人に近づいた環境の中で、様々な体験や経験を積み重ねながら、物事の見方や人生について考え、意欲を持って学び終えた自信の現れと思います。

皆さんは、4 月から社会人として、あるいは大学院生として新たな出発を迎えますが、今日の感動を忘れることなく、さらに一段とたくましく成長されることを心から願っています。

大学院修了の皆さん。

北見工業大学大学院工学研究科の課程を修了し、修士、博士の学位を取得され、誠におめでとうございます。

皆さんもこの4月から高度な専門技術者として、あるいは研究者としての一步を踏み出すことになります。

どのような道に進もうとも大学院生として培った知識と経験を活かして、大いに活躍されることを期待しています。

皆さんが本学に在学していた平成22年に鈴木章北海道大学名誉教授、根岸英一アメリカパデュー大学特別教授がノーベル化学賞、昨年は山中伸弥京都大学教授がノーベル医学・生理学賞と日本人の受賞が続き、明るい話題となりました。

本学にもなじみが深い鈴木先生には昨年実施された本学社会連携推進センター創立20周年記念事業で、また、根岸先生には一昨年北海道教育委員会との共催で、それぞれ特別講演をしていただきましたので、聴講した方も少なくないと思います。

学長室に飾ってある色紙に、鈴木先生は精神を尽くして努めるという意味の「精進努力」、根岸先生は「たくさんの大きな夢を楽観的に追い求めなさい」という言葉を残してくださいました。

皆さん方に残されたこれらの言葉を深く心にとどめ、これからの人生の糧にし、それぞれの夢の実現に向けて一生懸命努力してください。

2年前に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響で、被災地ではいまだに多くの方が避難所生活を強いられ、被爆の除染作業も収束にはほど遠い状況にあります。

この原発事故では、工学技術に携わって

いる私たちにとって技術者倫理や原発の安全神話などに関して反省すべき点が明らかになりました。

技術者倫理に関して学位記授与式にあたって社会に巣立つ皆さんに伝えたいことは、技術者として組織の目的とそれが抱える矛盾を正しく認識したうえで、組織に誤りがあると判断した場合には、勇気を持って自分の意見を主張しなければならない、ということです。それが工学を学んだ者として倫理上最も重要な心構えです。

安全神話に関しては、大震災や原発事故に対して、一時「想定外」という言葉が少なからず用いられていました。我が国は古来大きな自然災害に見舞われ、それを克服するため技術力を高めてきました。その過程で生じた新たな課題に対して、幅広い知識や情報を駆使して解決してきました。しかし、多くの分野で技術が複雑に高度化専門化し、かつ分化した結果、発生した災害に対して想定外と判断してしまった側面があります。

私たち工学の世界に身を置く者にとって、これからの復興にさらなる力を結集していかなければなりません。

本学で学んだ皆さんは、技術者としての倫理観や安全性に対する基礎的知識を兼ね備えているのですから、安全神話を信じることなく、いつか必ず起きるであろう想定外の災害に備える心構えを持って社会人の一步を踏み出して下さい。

大震災だけでなく、少子高齢化や財政赤字などに加えて、最近では環太平洋パートナーシップ協定への交渉参加など、皆さんがこれから足を踏み入れようとしている社会には、解決すべき課題が山積しています。

そのなかで我が国の目指すべき方向性は、

自然科学の分野でノーベル賞受賞者を輩出する科学技術立国であり、その技術力が少子高齢化対策や経済再生などのかぎとなります。

若い皆さん方の力が必要とされています。

現在のように多種多様な課題を抱えている時代だからこそ、若い発想で皆さんが力を発揮できる未来への道を拓いてください。

昨年7月に旭川市の旭山動物園から逃げ出したヨーロッパフラミンゴが丸3ヶ月も逗留したこの自然豊かなオホーツクの地も、この冬は寒さが長く続き、雪も多い厳しい日々でしたが、流氷も去り始め海明けを前に春の日差しが日一日と強くなってきました。

4つの国立公園に囲まれ環境に恵まれた北見のキャンパスで学生生活を送ったことを心に刻み、国、北海道、オホーツク圏そ

して北見市の「知の拠点」である北見工業大学で学んだことを誇りにしていただきたいと思います。

様々な困難な課題を克服し、現在の閉塞感を切り開く若々しい技術者として活躍されるとともに、いずれ家庭を持ち家族を愛する善良な市民として過ごされることを心から願って学位記授与式にあたっての告辞と致します。

改めまして学部卒業、大学院修了おめでとうございます。



平成 25 年 3 月 18 日
北見工業大学長 鮎田 耕一

= 入試 =

大学院工学研究科（第2回）入学試験を実施

（入 試 課）

平成25年度大学院工学研究科博士前期課程入学試験（第2回）を2月12日（火）（学力検査）、13日（水）（面接試験）に実施しました。各専攻別の合格者数等は下表のとおりです。

また、平成25年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験（第2回）を2月12日（火）（面接試験）に実施しました。各専攻別の合格者数等は下表のとおりです。

博士前期課程

専攻名 募集区分	一般入試		社会人特別入試		外国人留学生特別入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械工学専攻	1	0	0	0	1	1
社会環境工学専攻	3	3	0	0	0	0
電気電子工学専攻	3	0	0	0	1	0
情報システム工学専攻	2	2	0	0	1	1
バイオ環境化学専攻	4	4	0	0	1	1
マテリアル工学専攻	1	1	0	0	1	1
合 計	14	10	0	0	5	4

博士後期課程

専攻名 募集区分	一般入試		社会人入試		外国人留学生入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
生産基盤工学専攻	1	1	1	1	0	0
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	0	0	2	2	0	0
医療工学専攻	0	0	1	1	0	0
合 計	1	1	4	4	0	0

工学部一般入試を実施

(入 試 課)

平成 25 年度工学部一般入試について、1 月 28 日 (月) から 2 月 6 日 (水) までの願書受付期間内に前期日程 587 人、後期日程 1,474 人の出願がありました。

前期日程は 3 月 6 日 (水) に合格者を発

表し、後期日程は 12 日 (火) に個別学力検査を行い、20 日 (水) に合格者を発表しました。各系の合格者数は下表のとおりです。

前期日程

系 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	70	211	159
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	63	179	113
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	46	197	106
合 計	179	587	378

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	50	586	65
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	42	448	62
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	36	440	36
合 計	128	1,474	163

＝ 研究助成 ＝

平成24年度共同研究の受入状況

平成25年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会環境工学科	教授	三上 修一	エポキシ樹脂の寒冷地性能確認試験に関する研究 (その2)	日本国土開発株式会社
機械工学科	教授	鈴木 聡一郎	コーナリング速度を向上するスピードスケート靴に関する研究	国立大学法人筑波大学
社会環境工学科	教授	川村 彰	STAMPER II 及びFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	大成ロテック株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	改良型STAMPER II とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの改良	ティーアール・コンサルタント株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	「STAMPERを活用した簡易IRI測定技術」の共同研究・開発	株式会社共和電業/株式会社ワークム北海道/ 大成ロテック株式会社
電気電子工学科	准教授	武山 真弓	Cu多層配線へ適用する極薄バリヤ膜の信頼性	芝浦工業大学

平成24年度累計68件

平成24年度奨学寄附金受入状況

平成25年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社ドーコン	円 300,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	工学研究のため	有限会社シー・エス・プランニング	50,000
機械工学科	准教授	松村 昌典	住宅換気に関する研究助成	日本電興株式会社	20,000
機械工学科	教授	尾崎 義治	光学研究に対する助成	ITソリューションズ	250,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	工学研究のため	株式会社ドーコン	500,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	一般社団法人 北海道開発技術センター	1,000,000
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	北見工業大学における学術研究等助成	株式会社村田製作所 野洲事業所	1,000,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	工学研究のため	一般社団法人 北海道開発技術センター	1,000,000
情報システム工学科	准教授	前田 康成	医用工学研究のため	北見医工連携研究会	200,000
バイオ環境化学科	教授	中谷 久之	バイオ環境化学に対する寄附	出光ライオンコンポジット株式会社 複合材料研究所	500,000
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究・研究交流及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学 社会連携推進センター推進協議会	20,000
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	CNT生成のメカニズムの研究とCNT試作	戸田工業株式会社	500,000

平成24年度累計57件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
25. 3. 31	工学部教授	小林 道明	定年退職
〃	工学部教授	吉田 公策	定年退職
〃	工学部助教	保苺 和雄	定年退職
〃	財務課自動車運転手	小野 優一	定年退職
〃	技術部学部・大学院支援室長	大内 均	定年退職
〃	工学部講師	ボゼック, クリスト ファー ジョン	任期満了退職
〃	工学部助教	柳沢 英人	任期満了退職
〃	総務課長	谷川 敦	辞職 (文部科学省へ転出)
〃	情報図書課長	片桐 和子	辞職 (北海道大学へ転出)
〃	学生支援課事務職員	佐藤 賢児	辞職
25. 4. 1	工学部教授	吉田 孝	学術情報機構長 (任期:平成26年3月31日まで)
〃	工学部准教授	早川 博	工学部教授
〃	工学部准教授	南 尚嗣	工学部教授
〃	工学部准教授	村田 美樹	工学部教授
〃	工学部准教授	升井 洋志	工学部教授
〃	工学部講師	大津 直史	工学部准教授
〃	(新規採用)	ボゼック, クリスト ファー ジョン	工学部講師
〃	北海道大学大学院工学研究院助教	星野 洋平	工学部助教
〃	(新規採用)	大野 浩	工学部助教
〃	(新規採用)	杉坂 純一郎	工学部助教
〃	(新規採用)	プタシンスキ, ミハウ エドムンド	工学部助教
〃	(新規採用)	古瀬 裕章	工学部助教

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
25.4.1	入試課長	三浦 哲也	総務課長
〃	入試課副課長（係長兼務）	斉藤 仁史	入試課長（係長兼務）
〃	室蘭工業大学図書・学術情報事務室 ユニット・マネージャー	岸本 一志	情報図書課長（係長兼務）
〃	研究協力課副課長（係長兼務）	小野 恵子	研究協力課副課長
〃	企画広報課係長	齊藤 敏浩	企画広報課副課長（係長兼務）
〃	情報図書課係長	高橋 定志	情報図書課専門職員
〃	総務課主任	高橋 亜喜子	総務課専門職員
〃	財務課主任	尾河 康典	財務課専門職員
〃	研究協力課主任	白鳥 善裕	研究協力課係長
〃	情報図書課事務職員	中山 美雪	情報図書課主任
〃	文部科学省（研修生）	後藤 将大	学生支援課事務職員
〃	（新規採用）	牧野 華子	入試課事務職員
〃	技術部大学運営支援室技術専門員	久松 茂	技術部学部・大学院支援室長
〃	技術部大学運営支援室 情報処理支援グループ情報処理係長	森脇 幸伸	技術部大学運営支援室 情報処理支援グループ長
〃	技術部学部・大学院支援室 教育研究支援グループ長	平松 雅宏	技術部大学運営支援室技術専門員
〃	技術部大学運営支援室 情報処理支援グループ長	松田 弘喜	技術部学部・大学院支援室 教育研究支援グループ長
〃	技術部大学運営支援室 情報処理支援グループ技術専門職員	松本 正之	技術部大学運営支援室 情報処理支援グループ情報処理係長
〃	技術部大学運営支援室 情報処理支援グループ技術専門職員	宇野 珠実	技術部大学運営支援室 情報処理支援グループ機器運用係長
〃	技術部大学運営支援室 情報処理支援グループ機器運用係長	長谷川 稔	技術部学部・大学院支援室 ものづくり支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室 教育研究支援グループ計測システム係	坪田 豊	技術部学部・大学院支援室 教育研究支援グループ技術専門職員

各種委員会

(総務課)
平成25年4月1日現在

	役員会	経営協議会	教育研究評議会	学科長・講座主任	専攻主任
議長	学 長 鮎 田 耕 一	学 長 鮎 田 耕 一	学 長 鮎 田 耕 一		
委員	理 事 高 橋 信 夫	理 事 高 橋 信 夫	理 事 高 橋 信 夫	機 械 工 学 科 山 田 貴 延	博 士 前 期 課 程
	理 事 田 牧 純 一	理 事 田 牧 純 一	理 事 田 牧 純 一	社 会 環 境 工 学 科 渡 邊 康 玄	機 械 工 学 専 攻 山 田 貴 延
	理 事 小 野 薫	理 事 小 野 薫	理 事 小 野 薫	電 気 電 子 工 学 科 谷 本 洋	社 会 環 境 工 学 専 攻 渡 邊 康 玄
		副 学 長 田 村 淳 二	副 学 長 田 村 淳 二	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 山 田 浩 嗣	電 気 電 子 工 学 専 攻 谷 本 洋
		副 学 長 吉 田 孝	副 学 長 吉 田 孝	バ イ オ 環 境 化 学 科 中 谷 久 之	情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻 山 田 浩 嗣
		事 務 局 長 小 椋 史 朗	機 械 工 学 科 長 山 田 貴 延	マ テ リ ア ル 工 学 科 渡 邊 眞 次	バ イ オ 環 境 化 学 専 攻 中 谷 久 之
		越 膳 良 臣	社 会 環 境 工 学 科 長 渡 邊 康 玄	共 通 講 座 照 井 日 出 喜	マ テ リ ア ル 工 学 専 攻 渡 邊 眞 次
		佐 藤 正 行	電 気 電 子 工 学 科 長 谷 本 洋		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
		永 田 正 記	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 長 山 田 浩 嗣		
		橋 口 一 徳	バ イ オ 環 境 化 学 科 長 中 谷 久 之		
		長 谷 川 淳	マ テ リ ア ル 工 学 科 長 渡 邊 眞 次		
		増 山 壽 一	共 通 講 座 照 井 日 出 喜		博 士 後 期 課 程
		三 上 隆	国 際 交 流 セ ン タ ー 長 許 斐 ナタリー		生 産 基 盤 工 学 専 攻 羽 二 生 博 之
			技 術 部 長 亀 丸 俊 一		寒 冷 地 ・ 環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 工 学 専 攻 田 村 淳 二
			事 務 局 長 小 椋 史 朗		医 療 工 学 専 攻 吉 田 孝
			基 盤 研 究 推 進 本 部 長 庄 子 仁		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
			産 学 官 連 携 推 進 本 部 長 川 村 彰		
			研 究 支 援 本 部 長 堀 内 淳 一		
			情 報 処 理 セ ン タ ー 長 榮 坂 俊 雄		博 士 後 期 課 程
			機 械 工 学 科 鈴 木 聡 一 郎		(平成21年度以前入学者)
			社 会 環 境 工 学 科 山 下 聡		シ ス テ ム 工 学 専 攻 田 村 淳 二
			電 気 電 子 工 学 科 谷 藤 忠 敏		物 質 工 学 専 攻 吉 田 孝
			情 報 シ ス テ ム 工 学 科 鈴 木 正 清		各 専 攻 共 通 照 井 日 出 喜
			バ イ オ 環 境 化 学 科 星 雅 之		
			マ テ リ ア ル 工 学 科 平 賀 啓 二 郎		
			共 通 講 座 齋 藤 正 美		
任 期	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31

	系 列 長	学 長 補 佐	教 務 委 員 会	学 生 委 員 会	入 学 者 選 抜 委 員 会
委員長			副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 田 村 淳 二	副 学 長 田 牧 純 一
委 員	機械・社会環境系 山田 貴 延	(入試担当) 山下 聡	機械工学科 三戸 陽 一	機械工学科 尾崎 義 治	学 長 補 佐 山 下 聡
	情報電気・ エレクトロニクス系 谷本 洋		社会環境工学科 高橋 清	社会環境工学科 亀田 貴 雄	機械工学科 羽二生 博 之
	バイオ環境・ マテリアル系 中谷 久 之		電気電子工学科 野矢 厚	電気電子工学科 高橋 理 音	社会環境工学科 宮 森 保 紀
	共通講座 照井 日出喜		情報システム工学科 三浦 則 明	情報システム工学科 中垣 淳	電気電子工学科 橋本 泰 成
			バイオ環境化学科 岡崎 文 保	バイオ環境化学科 菅野 亨	情報システム工学科 榎井 文 人
			マテリアル工学科 阿部 良 夫	マテリアル工学科 南 尚 嗣	バイオ環境化学科 佐藤 利 次
			共通講座 戸澤 隆 広	共通講座 三枝 和 彦	マテリアル工学科 川村 みどり
			社会連携推進センター 鞘 師 守	国際交流センター長 許斐 ナタリー	共通講座 芳賀 和 敏
任 期	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31	～ 26. 3. 31

	国際交流委員会	大学評価委員会	広報委員会	安全衛生委員会	施設環境委員会
委員長	副学長 田村 淳二	理事 田牧 純一	副学長 田村 淳二	理事 高橋 信夫	副学長 高橋 信夫
委員	国際交流センター長 許斐 ナタリー	機械工学科 佐々木 正史	機械工学科 林田 和宏	技術部 橋本 晴美	環境・エネルギー研究推進センター長 庄子 仁
	機械工学科 大橋 鉄也	社会環境工学科 中山 恵介	社会環境工学科 三上 修一	〃 白川 和哉	社会連携推進センター長 川村 彰
	社会環境工学科 高橋 修平	電気電子工学科 谷本 洋	電気電子工学科 橋本 泰成	保健管理センター所長 本田 明	応用研究推進センター長 羽二生 博之
	電気電子工学科 小原 伸哉	情報システム工学科 三波 篤郎	情報システム工学科 早川 吉彦	バイオ環境化学科 三浦 宏一	機器分析センター長 堀内 淳一
	情報システム工学科 鈴木 範男	バイオ環境化学科 星 雅之	バイオ環境化学科 兼清 泰正	マテリアル工学科 伊藤 英信	機械工学科 柴野 純一
	バイオ環境化学科 新井 博文	マテリアル工学科 阿部 良夫	マテリアル工学科 大野 智也	社会連携推進センター 有田 敏彦	環境・エネルギー研究推進センター 八久保 晶弘
	マテリアル工学科 松田 剛	共通講座 照井 日出喜	共通講座 鳴島 史之	機械工学科 富士 明良	電気電子工学科 武山 真弓
	共通講座 ポゼック・クリストファー	事務局長 小椋 史朗	社会連携推進センター 鞘師 守	情報システム工学科 今井 正人	情報システム工学科 後藤 文太郎
	事務局長 小椋 史朗		事務局長 小椋 史朗	マテリアル工学科 射水 雄三	バイオ環境化学科 青山 政和
				技術部 平松 雅宏	マテリアル工学科 射水 雄三
				〃 山田 忠永	共通講座 笹川 涉
				情報図書課 高橋 定志	事務局長 小椋 史朗
任期	～ 26. 3.31	～ 27. 3.31	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31

	研究推進機構統括会議	学術情報委員会	発明審査委員会	遺伝子組換え実験等安全管理委員会	環境安全センター
委員長	機構長 高橋 信夫	機構長 吉田 孝	副学長 吉田 孝	副学長 吉田 孝	副学長 高橋 信夫
委員	副学長 吉田 孝	情報処理センター長 榮坂 俊雄	知的財産センター長 翰師 守	バイオ環境化学科 堀内 淳一	施設課長 荒谷 正樹
	基本盤研究推進部長 庄子 仁	情報処理センター 升井 洋志	社会連携推進部長 川村 彰	〃 佐藤 利次	社会環境工学科 白川 龍生
	産学官連携推進部長 川村 彰	〃 三浦 克宜	応用研究推進部長 羽二生 博之	保健管理センター所長 本田 明	情報システム工学科 亀丸 俊一
	研究部支援部長 堀内 淳一	機械工学科 松村 昌典	小川 正芳	研究協力課長 清野 千春	バイオ環境化学科 小俣 雅嗣
	応用研究推進部長 羽二生 博之	社会環境工学科 堀 彰			保健管理センター所長 本田 明
	知的財産センター長 翰師 守	電気電子工学科 川村 武			技術部 白川 和哉
	ものづくりセンター長 富士 明良	情報システム工学科 曾根 宏靖			〃 須澤 啓一
	研究協力課長 清野 千春	バイオ環境化学科 三浦 宏一			〃 橋本 晴美
		マテリアル工学科 村田 美樹			総務課 菊池 一修
		共通講座 戸澤 隆広			施設課 早瀬 敦
					〃 松沼 拓夫
					〃 原田 壮志
					学生支援課 小野 勝巳
					〃 本庄 哲朗
					〃 長谷川 麻美
					保健管理センター 辻 由美子
任期		～ 26. 3.31		～ 26. 3.31	～ 26. 3.31

	学生支援センター	学生よろず相談室	就職支援室	教育IT支援室	教育改善推進センター
センター長・室長	副学長 田村 淳二	マテリアル工学科 射水 雄三	バイオ環境化学科 新井 博文	情報システム工学科 三波 篤郎	副学長 田牧 純一
副センター長・室長補佐・副室長	学生支援課長 小野 勝巳		学生支援課副課長 渡部 孝弘	電気電子工学科 平山 浩一	社会環境工学科 堀 彰
兼任教員・センター員・室員	学生よろず相談室長 射水 雄三	機械工学科 渡辺 美知子	機械工学科 佐藤 満弘	マテリアル工学科 射水 雄三	
	就職支援室長 新井 博文	社会環境工学科 伊藤 陽司	社会環境工学科 中尾 隆志	情報処理センター 升井 洋志	機械工学科 三戸 陽一
	教育IT支援室長 三波 篤郎	〃 舘山 一孝	電気電子工学科 谷藤 忠敏	〃 三浦 克宜	社会環境工学科 井上 真澄
	就職支援室室長補佐 渡部 孝弘	電気電子工学科 高橋 理音	情報システム工学科 原田 建治	技術部 宇野 珠実	電気電子工学科 平山 浩一
	教育IT支援室副室長 平山 浩一	情報システム工学科 鈴木 範男	マテリアル工学科 宇都 正幸	〃 熊本 慎也	情報システム工学科 前田 康成
		〃 中垣 淳		学生支援課長 小野 勝巳	〃 鈴木 範男
		バイオ環境化学科 菅野 亨		学生支援課副課長 斉藤 順	バイオ環境化学科 佐藤 利次
		共通講座 柳 等			マテリアル工学科 南 尚嗣
		環境・エネルギー研究推進センター 八久保 晶弘			共通講座 山田 健二
		保健管理センター所長 本田 明			〃 三枝 和彦
		学生支援課長 小野 勝巳			
		学生支援課副課長 渡部 孝弘			
任期		～ 26. 3.31	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31

	入試企画センター	不正防止対策室	マネジメント工学コース運営委員会
センター長・室長	副 学 長 田 牧 純 一	副 学 長 吉 田 孝	理 事 高 橋 信 夫
副センター長・副室長	社会環境工学科 山 下 聡	財 務 課 長 吉 田 茂	副 学 長 田 牧 純 一
		研究協力課長 清 野 千 春	
兼任教員・室員	機 械 工 学 科 鈴 木 聡 一 郎	環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 研 究 推 進 セ ン タ ー 長 庄 子 仁	知的財産センター 鞆 師 守
	電 気 電 子 工 学 科 川 村 武	機 械 工 学 科 佐 々 木 正 史	機 械 工 学 科 富 士 明 良
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 鈴 木 正 清	情 報 シ ス テ ム 工 学 科 榮 坂 俊 雄	社 会 環 境 工 学 科 白 川 龍 生
	バ イ オ 環 境 化 学 科 星 雅 之	マ テ リ ア ル 工 学 科 阿 部 良 夫	電 気 電 子 工 学 科 武 山 眞 弓
	マ テ リ ア ル 工 学 科 南 尚 嗣		情 報 シ ス テ ム 工 学 科 早 川 吉 彦
	共 通 講 座 柳 等		バ イ オ 環 境 化 学 科 岡 崎 文 保
			マ テ リ ア ル 工 学 科 村 田 美 樹
			共 通 講 座 山 田 健 二
任 期	~ 27. 3.31		

	クラス担任（1年）	クラス担任（2年）	クラス担任（3年）	クラス担任（4年）	就職担当教員
	機械・社会環境系	機械工学科 大橋 鉄也	機械工学科 鈴木 聡一郎	機械工学科 山田 貴延	機械工学科 大橋 鉄也
	A 主担任 三枝 和彦	〃 佐藤 満弘	〃 ウラ シャリフ	〃 鈴木 聡一郎	〃 佐藤 満弘
	〃 副担任 柴野 純一	社会環境工学科 川口 貴之	社会環境工学科 後藤 隆司	社会環境工学科 三上 修一	社会環境工学科 三上 修一
	B 主担任 戸澤 隆広	〃 舘山 一孝	〃 駒井 克昭	〃 亀田 貴雄	〃 亀田 貴雄
	〃 副担任 三戸 陽一	電気電子工学科 高橋 理音	電気電子工学科 植田 孝夫	電気電子工学科 谷藤 忠敏	電気電子工学科 谷藤 忠敏
	C 主担任 笹川 渉	〃 安井 崇	〃 武山 眞弓	〃 平山 浩一	〃 平山 浩一
	〃 副担任 井上 真澄	情報システム工学科 前田 康成	情報システム工学科 鈴木 範男	情報システム工学科 今井 正人	情報システム工学科 榮坂 俊雄
	D 主担任 芳賀 和敏	〃 渡辺 文彦	〃 原田 康浩	〃 原田 建治	〃 原田 康浩
	〃 副担任 中村 大	バイオ環境化学科 三浦 宏一	バイオ環境化学科 服部 和幸	バイオ環境化学科 中谷 久之	バイオ環境化学科 中谷 久之
	情報電気エレクトロニクス系	マテリアル工学科 大野 智也	マテリアル工学科 村田 美樹	マテリアル工学科 渡邊 眞次	〃 新井 博文
	A 主担任 阿曾 正浩				マテリアル工学科 渡邊 眞次
	〃 副担任 川村 武				
	B 主担任 齋藤 正美				
	〃 副担任 田口 健治				
	C 主担任 伊関 敏之				
	〃 副担任 河野 正晴				
	D 主担任 鳴島 史之				
	〃 副担任 鈴木 育男				
	バイオ環境・マテリアル系				
	A 主担任 柳 等				
	〃 副担任 菅野 亨				
	B 主担任 照井 日出喜				
	〃 副担任 菅野 亨				
	C 主担任 山田 健二				
	〃 副担任 射水 雄三				
任期	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31	～ 26. 3.31

= 国際交流 =

2013 年留学生交流の夕べを開催

(研究協力課)

3月4日(月)に本学コミュニケーションアトリウムにおいて、今春卒業・修了する留学生を囲む交流の夕べが、国際交流に関係する市民の方々や本学教職員など約110名の出席を得て盛大に開催されました。

鮎田耕一学長の挨拶に続いて、今春卒業・修了する留学生を代表して、大学院博士前期課程機械システム工学専攻2年次のリディアナ ビンティ ロスランさん(マレーシア)から日本での6年間におよぶ留学生活の思い出やお世話になった方々への感謝と将来の抱負などのスピーチが行われた後、

学長から卒業・修了する留学生一人一人に記念品が贈呈されました。

引き続き開催された交流会では、アクションとして卒業・修了する留学生本人の自己紹介スライドの上映、在学留学生の日本の歌の披露やマジック、教員によるバンド演奏などが行われ、会場から盛大な拍手を受けました。

留学生は、日頃からお世話になっている支援団体の方などとの記念撮影や思い出話に興じるなど楽しいひとときを過ごしていました。



卒業・修了する留学生



挨拶する鮎田学長



お世話になった方と談笑する留学生

＝諸報＝

学生による地域貢献活動（市町村の冬祭りへの参加）

（社会連携推進センター）

マネジメント工学コース学生の卒業研究であるマネジメント工学プロジェクトの一環として、コース4年生の有志が中心となり学生による地域貢献をテーマとするボランティアサークル「おにおんりんぐ」を立ち上げました。その活動のひとつとして、美幌町、北見市で開催された冬祭りの企画に参加しました。

2月3日（日）に行われた美幌町の「びほろ冬まつり」では、「仮装綱引き」に参加しました。綱引きそのものは1回戦敗退となりましたが、仮装したチームメンバー5人は、会場の多くの子ども達からの人気を集め、会場を盛り上げ、仮装大賞を獲得しました。

2月9日（土）・10日（日）に行われた北見市の「北見冬まつり」では、4年ぶりに復活した市民雪像づくりに参加しました。今年の雪像のテーマである「オリジナルの雪ダルマ」を、「雪だるまのレントゲン」というアイデアで制作しました。また、北見市が地域活性化企画として力を入れている

「北見厳寒の焼き肉まつり」へも参加しました。

街おこしを実施する市町村の方々から学生の活気や若い力に対する強い要請をいただいていたのですが、今回ようやくその要請に応えることができました。これまでも学生個人が地域の様々な活動に参加してきた経緯はありますが、学生自身が社会貢献について強く意識し深く考えながらそれらに参加する試み、学生の継続的・体系的な地域貢献を目指す試みは、今年度がスタートの年となりました。また、このサークルは、興部町と清里町の産業祭りで子ども達を対象とした理科実験を行い、美山小学校の総合学習では理科教育の授業支援などの活動も行いました。

来年度以降も継続し、このサークルを中心にいろいろな活動を検討中です。「おもしろ科学実験」の市町村版や種々地域活動の企画過程への参画など、北見工業大学の学生ならではの活動、そして北見工業大学をPRできるような活動につなげていってもらいたいと考えています。



びほろ冬まつり 仮装大賞受賞



北見冬まつり 雪だるまのレントゲン

安全衛生講習会を開催

(総務課)

2月7日(木)、A102講義室にて平成24年度第2回安全衛生講習会が行われ、教職員約40名が参加しました。

高橋信夫環境安全センター長の挨拶の後、今回はメンタルヘルスと生活習慣病予防の2つのテーマで行われました。

初めに、北海道オホーツク総合振興局保健環境部北見地域保健室健康推進課精神保健福祉係保健師の小塚志織氏より「心の健康を保つために」と題してお話いただきました。うつ病は早期発見、早期治療が大切で、ストレスと上手に付き合い、休むべき時には休むなど経過に応じた対応や過ごし方が大事であること、誰でもなり得るものであり周囲の理解やサポートが欠かせないこと等を、ストレス耐性チェックを交えながら説明されました。

次に、同課健康増進係専門員の久保田寿広氏より「生活習慣病予防のために知っておきたいこと」と題してお話いただきました。生活習慣病の予防には日常的な自己管理が必要で、体重と腹囲を把握することが重要であること、適正なエネルギー摂取量を理解した上で、バランスの良い食生活や無理のない運動など、出来ることから始めて定期的に見直すのが肝要であることを、BMIなどの数値を交えながら説明されました。

時折ユーモアを交えた分かりやすい内容に、参加した教職員は熱心に聴き入りながら、メンタルヘルスに対する認識と対処法への理解を深めるとともに、食生活の改善などを通じた生活習慣病予防に関する認識を新たなものにしていました。



講演する小塚氏



講演する久保田氏



受講者の様子

平成 24 年度新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン事業終了

(社会連携推進センター)

社会連携推進センターが中心となって行っている人材育成事業「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」は、平成 18 年度から 22 年度まで文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」事業として取り組んで以降、平成 23 年度は北見市の事業として、そして今年度はオホーツク総合振興局の「オホーツク「食」の地域資源付加価値向上事業調査委託業務（ものづくり人材育成事業）」事業として継続しています。第一次産業製品の工業化を地域戦略の柱とし、健康と安心・安全をキーワードに新規作物の作付けから商品開発・事業化までの知識とスキルを有する「工学的農業クリエイター」の創出を目指しています。

今年度は石狩市、比布町、大空町等の広域から 11 名の受講生が集まり、幾多の製品・商品が開発されました。2 月 13 日(水)に受講生の成果報告会が行われ、2 月 20 日(水)には修了式が行われました。受講生が手がけた開発商品の中で、肉等の洋食に合うサクランボなどの果実を主としたジャムや大豆を主原料としたドレッシング、低温熟成した飲むヨーグルト等、商品化まで間近となるような試作品も生まれました。本事業では修了生のフォローアップを続けています。次年度においては、大学が戦略的に推進する研究ユニットのひとつである工農連携研究ユニットとの連携を行いながら引き続き事業を展開していく予定です。



成果報告会



修了式

(出席した受講生 4 名と関係スタッフ)

第6回オホーツク医学大会・北見医工連賞贈呈式

(研究協力課)

2月16日(土)に北見医師会、北見医工連携研究会主催の第6回オホーツク医学大会が、本学を会場に開催されました。

この大会は、地域の医師や歯科医師、薬剤師、獣医師の他、日本赤十字北海道看護大学、東京農業大学や本学の研究者等が交流し連携を図ることにより、地域の医療レベルをより良いものにしていくことを目的としています。

古屋聖児北見医師会会長の開会挨拶の後、主に若手研究者の医療工学研究のために設けられた北見医工連賞の授賞式が行われました。今回は、本学情報システム工学科の前田康成准教授が受賞されました。

その後、前田准教授から「特定栄養素に関する制約を考慮した料理レシピ発想支援方法」と題し、より栄養価の高い料理やカロリーの低い料理など、利用者の希望に合

わせて代替食材を用いたレシピの検索におけるアルゴリズムの効率化について講演が行われました。情報工学と医療に関連した工業大学ならではの面白い研究です。

続いて、特別講演として石埜正穂札幌医科大学教授から「医科知的財産管理」と題し、医療研究における知的財産を権利化し、管理していくことの必要性と課題について講演が行われました。

また、一般講演では管内の病院や消防組合、大学等から7件の発表があり、本学からは情報システム工学科の早川吉彦准教授がメディカル3次元イメージングについて、電気電子工学科の橋本泰成准教授がブレイン・マシン・インターフェース技術によるリハビリについて発表されました。これらの研究成果は、多くの質疑があり、参加者の関心を引いたようでした。



北見医工連賞授賞式



前田准教授



石埜教授



早川准教授



橋本准教授

オホーツク・テロワール ワークショップへ参加

(社会連携推進センター)

2月16日(土)、17日(日)の2日間、「オホーツク・テロワールシンポジウム 2013 in 紋別」が紋別市民会館を会場に開催されました。一般社団法人オホーツク・テロワールはオホーツク地域の農商工連携事業支援・推進など、オホーツク地域において、自然、景観、産物、風土、文化などの地域資源を見つめ直し、それらを活かした産業、観光等の地域づくりを推進する様々な取組みを進めています。

北見工業大学では、平成18年度から社会連携推進センターが中心となって展開している人材育成事業「新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン」で社会人受講生が手がけている開発商品についてオホーツ

ク・マルシェへの参加や、オホーツクの気候や自然エネルギー等を活用した農商工連携事業の創出に向けた雪氷冷熱利用のセミナー、ワークショップに参加しています。

今回は、「オホーツク・テロワール商品開発会議」をテーマとして開催された2日目のワークショップに参加しました。ワークショップでは、約30名の参加者を4つのグループに編成し、地域資源を活用した商品開発への具体的なアイデア・ビジネス計画について、活発な議論が展開されました。オホーツク地域の特徴を意識した商品開発や、それらの実現に向けた課題などを再認識する場となりました。



ワークショップ会場



全体進行とファシリテーターを務めた小林国
之助教(北海道大学大学院農学研究院)、菅原
優研究員(当時)(東京農業大学オホーツク実
学センター)

FD 講演会を開催

(学生支援課)

2月20日(水)多目的講義室において電気電子工学科の平山浩一教授と社会環境工学科の井上真澄准教授を講師に、「学習教育目標到達度評価について」と題してFD講演会を開催しました。

この講演会は、中期計画に記載されている「学習到達度を多面的に評価するための指標を導入」するため、学習到達度評価チャートを導入していない4学科について、平成25年度から導入することを決定したため開催されたものです。



講師の平山教授と井上准教授

平山教授からは、電気電子工学科で導入されている学習時間数の到達比率をレーダーチャートで表示するパターンについて、井上准教授からは、社会環境工学科で導入されている修得単位数の到達比率を棒グラフで表示するパターンについて説明されました。その後、システムへのデータの入力方法など、導入していない学科から様々な質問が出されました。

多忙な時期にもかかわらず教職員51名の参加があり、熱心に聴講していました。



講演会の様子

また、3月19日(火)には、本学学生相談室カウンセラー 中野武房氏を講師に、「発達障害の理解と支援～アスペルガー症候群を中心に～」と題してFD講演会を開催しました。

特に発達障害及び不適応問題を抱える学生の就職問題をテーマにしており、「アスペルガー症候群」や「サヴァン症候群」など

の事例の説明から、就職活動での苦勞、職業選択、障害者就労と一般就労の比較など、発達障害の大学生が就職に関して直面する問題について講演されました。

今回の講演会は年度末の多忙な時期の開催でしたが、48名の教職員が参加し、発達障害の学生への対応を考えるうえで、非常に有意義な講演会となりました。



講師の中野氏



講演会の様子

第8回コラボ産学官研究成果発表会へ参加

(社会連携推進センター)

3月8日(金)、コラボ産学官にて第8回研究成果発表会が開催されました。コラボ産学官は全国72大学等研究機関のネットワークを有しています。地方大学が連携する強みを活かした都内での情報発信の拡大、大学シーズを都内の企業に活用してもらう機会を提供し、それぞれの地域と中小企業の活性化に貢献することを目的に、東京都江戸川区船堀に設置されており、会員大学における研究成果発表会を定期的に開催しています。

今回は、「食品・化粧品分野の大学発ブランド商品、技術とコラボしてみませんか？」をテーマに、コラボ産学官会員の5大学が参加しました。北見工業大学は、大学発ベン

チャー企業である「はるにれバイオ研究所株式会社」が研究開発した「高貴ハマナス花ティー」と化粧水「貴肌水」を主として紹介しました。さらには、平成18年度より社会連携推進センターが中心となって展開している人材育成事業「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」で社会人受講生が手がけている食に関する開発商品について紹介しました。プレゼンテーションの他に試飲・試食など、実際に開発商品を体験できる商談・展示ブースも設けられ、来場した熱心な企業の方との情報交換を積極的に行うことができ、前向きな商談へと発展しました。



プレゼンテーション



商談ブース

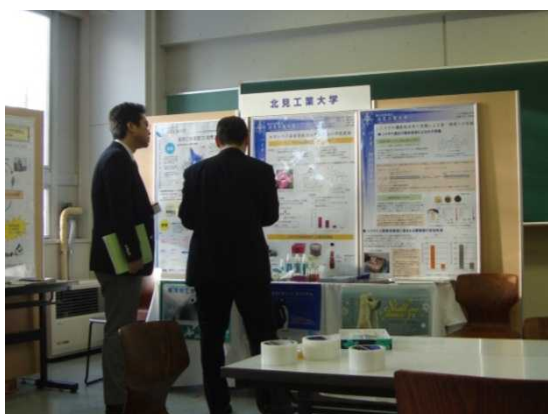
日本食品科学工学会北海道支部大会パネル展へ参加

(社会連携推進センター)

3月9日(土)、(社)日本食品科学工学会北海道支部大会が東京農業大学生物産業学部(オホーツクキャンパス)で開催されました。今回の大会は、道東での開催が初めてということもあり、北海道内の学会会員を対象に、道東地域の企業、大学、研究機関などを知ってもらうためのパネル展が企画され、北見工業大学も参加しました。

パネル展では、北見工業大学の紹介パネルとともに、食品関連の研究として、バイ

オ環境化学科の佐藤利次准教授、新井博文准教授がそれぞれ進めているキノコ培地・ハマナスから機能性物質を抽出する研究を紹介しました。本大会には、本学学生の発表参加があり、また、発表の合間の休憩時間などには大会参加者がパネル展を訪れ、本学について知っていただく機会となりました。



北見工業大学出展ブース

文部科学省 東日本大震災復興支援イベントへ参加

(企画広報課)

3月11日(月)文部科学省で開催された、「東日本大震災復興支援イベント～教育・研究機関としてできること、そしてこれから～」に参加しました。このイベントは、復興支援フォーラムと復興支援映像・パネル展が行われ、本学は復興支援フォーラムに参加し、日本赤十字北海道看護大学の被災地での学習支援活動に協力して、本学で作った雪で岩手県陸前高田市の小学生に真夏の雪遊びを楽しんでもらった活動や、学生有志が自費で制作したラバーバンドの売上げを被災地に届けた活動について紹介しました。

当日は天候に恵まれ、参加した54機関がそれぞれの展示を行い、会場には、一般の方から霞ヶ関界限、文部科学省の方々を

はじめ、柴崎明博元事務局長や高橋敏前研究協力課長など本学に縁のある方々にも訪れていただき、中でも、下村文部科学大臣には、自らラバーバンドをはめていただきました。また、雪・寒さ・氷をキーワードとする今後の自然災害に備える技術・減災へと繋がる技術の紹介に、丹羽文部科学大臣政務官からは、「冬季災害に関する防災・減災に向けた研究は大切ですね。」とお言葉をいただきました。

本イベントは東日本大震災復興支援の取組の紹介でしたが、本学だからこそ取り組むことができる技術の重要性をあらためて感じるとともに、本学の取組について知っていただく貴重な場となりました。



復興支援フォーラム会場



北見工業大学出展ブース



下村文部科学大臣



丹羽文部科学大臣政務官

北海道地域 4 大学 1 高専新技術説明会へ参加

(社会連携推進センター)

(独) 科学技術振興機構 (以下、JST) と北海道大学産学連携本部 TL0 部門が主催し、本学を含む北海道の 4 大学と 1 高専が共催する新技術説明会が、3 月 19 日 (火)、東京市ヶ谷の JST 東京別館ホールで開催されました。本説明会は、大学、公的研究機関および JST の各種事業により生まれた研究成果の実用化促進を目的に、大学研究者が自身の研究成果を説明・PR し、広く成果実施企業・共同研究パートナーを募る場です。

今年の説明会には、本学からは社会環境工学科の川村彰教授とバイオ環境化学科の

兼清泰正准教授の 2 名の研究者が参加しました。川村教授は車を走らせるだけで高精度に路面平坦性を評価できる車載用の小型計測装置について、また兼清准教授はカラフルな色変化で簡便・正確に糖濃度を検出する技術について紹介しました。会場には 121 名の熱心な聴講者が集まり、両研究者の説明後には個室に分かれ企業の方々との個別相談会も行われました。両研究者にとって、また本学にとって、今後の研究の進展に繋がる有意義な議論が交わされる貴重な機会になりました。



川村教授の発表



兼清准教授の発表



JST 新技術説明会会場

個人情報保護研修を開催

(企画広報課)

3月26日(火)、総合研究棟多目的講義室において平成24年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を実施しました。この研修は保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るため毎年開催しているものです。

今回は、小樽商科大学商学部企業法学科の石黒匡人教授を講師にお招きし、「紛争事

例等から学ぶ個人情報保護」と題し、個人情報保護に関して注意すべき問題点等を、具体的な裁判例や紛争事例を素材として、講演を実施しました。

講演には40名の教職員が参加し、石黒教授の講演に各受講者も熱心に聞き入っており、本学における個人情報保護に対する意識も高まり、有意義な研修となりました。



講師の石黒教授



研修の様子

北見工業大学生生活協同組合防火訓練を実施

(施設課)

3月26日(火)、本学生生活協同組合(以下、生協)の職員を対象とした防火訓練を実施しました。訓練実施場所を大学会館内の食堂及び売店とし、「土曜日の日中、食堂の厨房から出火」という想定で訓練を開始しました。

今回の主な訓練内容は「初期消火」、「消防への通報及び守衛への連絡」、「利用者の避難誘導」、「消防への現状報告」の4項目です。訓練は熱感知器を作動させ、非常ペ

ルを発報させることから始まり、生協職員で組織された自衛消防隊員が速やかに任務にあたり、予定していた訓練時間よりも早く、全ての任務が完了しました。

訓練終了後に防火管理者の荒谷正樹施設課長から講評があり、防火訓練は無事終了しました。今回の訓練によって、火事を含めた事故・災害に対する初動について考えるきっかけにもなり、訓練の重要性を再認識しました。



火元に向かい模擬の初期消火を試みる様子



建物外へ避難する仮想利用者

オホーツク地域活力支援包括連携協力に関する協定を締結

(研究協力課)

3月26日(火)に北海道開発局網走開発建設部において、本学と東京農業大学生物産業学部、日本赤十字北海道看護大学、網走開発建設部は、オホーツク地域活力支援包括連携協力協定を締結しました。

このたびの協定は、地域の抱える各種課題への助言やオホーツク地域の「安全・安心なくらし」、「自然・環境」、「技術開発」などの分野について、より緊密かつ組織的な連携協力体制をとることにより、地域社会への貢献及び広域的発展を支援することに加え、広範囲な教育・研究面の向上を目

的としています。

本学と東京農業大学生物産業学部及び日本赤十字北海道看護大学とは、単位互換や医工連携事業・人材育成事業などを通じ、また網走開発建設部とは、防災や環境保全における受託研究や学生教育の場を通じ、長年にわたり交流を重ねてきました。

今後は、協定締結により、相互の信頼関係と連携協力の実績を基盤に、医農工と分野の異なる3つの大学と行政機関が連携し、より効果的な地域支援の推進につながることを期待されます。



左から、板倉網走開発建設部長、河口日本赤十字北海道看護大学長、横濱東京農業大学生物産業学部長、本学鮎田耕一学長

太陽光発電事業推進に関する協定を締結

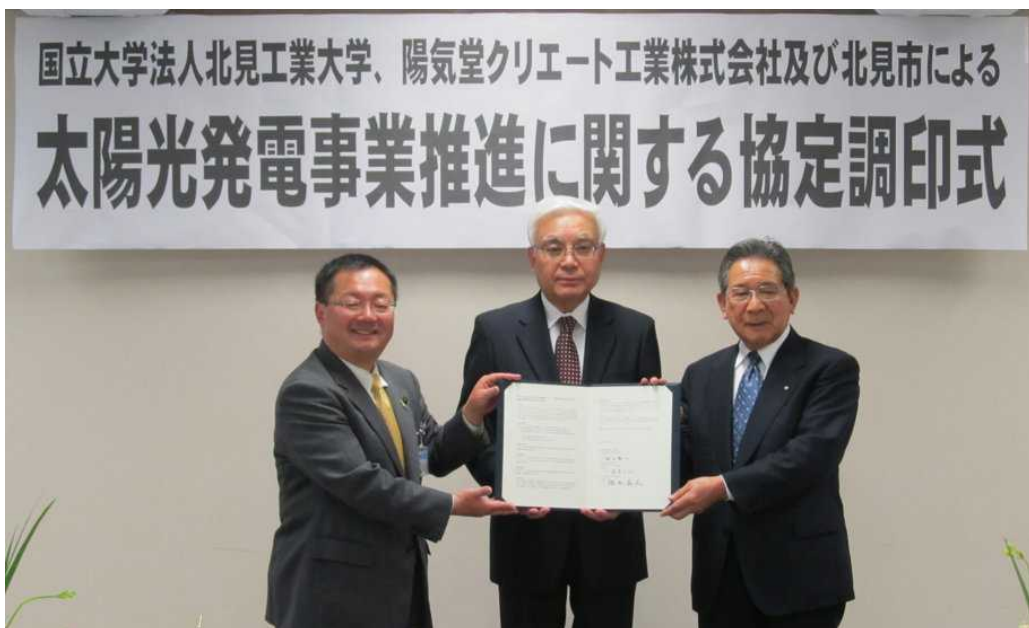
(研究協力課)

3月28日(木)に北見工業大学において、陽気堂クリエート工業株式会社及び北見市と太陽光発電事業推進に関する協定を締結しました。

このたびの協定は、エネルギーと環境問題をめぐる社会状況・動向の変化を鑑み、新エネルギーに関する知見を持つ本学と、ソーラー事業について豊富な実績・経験を持つ陽気堂クリエート工業株式会社、広大な敷地を持つ北見市が連携し、常呂森林公園周辺の用地を活用した太陽光発電事業を通じて産学官連携の取組を促進し、併せて地域の振興に寄与することを目的としています。

本学と陽気堂クリエート工業株式会社及び北見市とは、オホーツク新エネルギー開発推進機構(ONEDO)の構成員として、地域に賦存する新エネルギーの多角的な活用の可能性を求め、その総合的な方策について協議し、地域発展を図るため事業を連携して進めてきました。

今後は、協定締結により連携協力関係をより深め、北見市常呂森林公園内に建設した大規模太陽光発電施設を活用して得られた実証データを共同研究に利活用することが期待されます。また、本学が長年蓄積してきた知見を活かし、太陽光発電事業における技術的支援を行っていきます。



左から、櫻田北見市長、本学鮎田耕一学長、加藤陽気堂クリエート工業株式会社社長

平成 24 年度国立大学法人北見工業大学 永年勤務者表彰式（退職時）を挙行

（総務課）

平成 24 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式（退職時表彰）が 3 月 29 日（金）午前 9 時 40 分から第 2 会議室において行われました。

本学永年勤務者表彰（退職時表彰）の被表彰者に対し、鮎田耕一学長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

被表彰者は、次のとおりです。（50 音順）

氏名	所属学科等
大内 均	技術部
保 莉 和 雄	電気電子工学科
柳 沢 英 人	電気電子工学科
吉 田 公 策	電気電子工学科



= 日誌 =

2 月

- 4日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 5日 研究推進機構統括会議、学生委員会
- 7日 国際交流委員会、中小企業基盤整備機構個別相談会
- 12日 月曜日授業振替、大学院博士前期課程入学試験(第2回)(学力試験)、大学院博士後期課程入学試験(第2回)
- 13日 大学院博士前期課程入学試験(第2回)(面接試験)、新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン成果報告会
- 15日 入学試験実施委員会、入学者選抜委員会、図書館委員会
- 16日 オホーツク医学大会
- 19日 入学者選抜委員会
- 20日 教授会、研究科委員会、大学評価委員会、研究推進機構統括会議、FD講演会、大学院入学試験(第2回)合格発表、私費外国人留学生入学試験合格発表、新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン修了式
- 21日 教務委員会、中小企業基盤整備機構個別相談会
- 25日 発明審査委員会
- 26日 入学者選抜委員会
- 27日 教育研究評議会
- 28日 国際交流委員会、学生委員会、入学者選抜委員会、社会連携推進センター運営会議

3 月

- 4日 役員会、留学生交流の夕べ、入学者選抜委員会、大学院・編入学入学手続(～12日)、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 5日 教授会、研究科委員会
- 6日 広報委員会、研究推進機構統括会議、教務委員会、工学部前期日程合格発表
- 7日 教授会、工学部前期日程・私費外国人留学生入学手続(～15日)、図書館委員会、中小企業基盤整備機構個別相談会
- 12日 役員会、工学部後期日程個別学力検査
- 14日 発明審査委員会
- 15日 教育研究評議会、教務委員会
- 18日 学位記授与式、入学者選抜委員会、地域コア会議
- 19日 教授会、FD講演会、入学者選抜委員会
- 20日 工学部後期日程合格発表
- 21日 工学部後期日程入学手続(～27日)、中小企業基盤整備機構個別相談会
- 22日 経営協議会、役員会
- 26日 個人情報保護研修、北見工業大学生生活協同組合防火訓練、オホーツク地域活力支援包括連携協力に関する協定調印式
- 28日 太陽光発電事業推進に関する協定調印式
- 29日 永年勤務者表彰式